会　議　記　録

次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	第１回瀬戸・高松広域定住自立圏共生ビジョン懇談会
開催日時	平成２２年１月２８日(木) １０時００分～１２時１０分
開催場所	高松市役所　１１階　１１４会議室
議　　題	(1)懇談会設置要綱について (2)会長・副会長について (3)瀬戸・高松広域定住自立圏共生ビジョン素案について (4)その他
公開の区分	■　公開　　□　一部公開　　□　非公開
上記理由	
出席委員	井原会長，嘉門副会長，関委員，佃委員，時岡委員，曽我部委員，平尾委員，好井委員，吉田委員，宮本委員，三井委員，岩瀬委員，熊委員
傍 聴 者	０ 人　　（定員　１０　人）
担当課および連絡先	企画課（839－2135）

会議経過および会議結果

会議を開会し，次の議題について協議し，下記の結果となった。

(1) 共生ビジョン懇談会設置要綱について
事務局より説明

(2) 会長･副会長について
瀬戸・高松広域定住自立圏共生ビジョン懇談会設置要綱第６条第２項の規定により，委員の互選により会長が選任され，副会長は会長が指名した。
会　長　井原健雄，副会長　嘉門雅史

(3) 瀬戸・高松広域定住自立圏共生ビジョン素案について
事務局より説明

（会長）
今後，経験したことのない人口減少社会において，理屈ぬきで住んでいる地域に愛情を持つことが大切だと思います。地域で実行可能な取組を検討することが必要です。先ほど具体的な取組など事務局から説明がありましたが説明を聞いて，質問があれば先にお願いします。
（委員）
定住自立圏という言葉が分かりにくい。この言葉をとって考えると分かりやすい。この定住自立圏という言葉をどのように考え，共生ビジョンに入れていきますか。
（事務局）
定住自立圏という言葉はあるべき姿を表していることなので，最初の具体的な取組で，定住自立圏をすぐに実現するというところまで達していないが，将来像として捉えていただければと思う。

会議経過および会議結果
（会長） 人口減少社会では，定住自立圏の実現は難しく，人の交流を増やすという方向で考えていけばよいのではと考えている。制度上，この名称を使っているが，定住自立圏という言葉に強く縛りつけられるものではないと思う。 (委員) 施策において，３つの観点を分けているが，この分け方がよく理解しにくいのですが。 （事務局） 定住自立圏構想は生活密着型の制度なので，一番目として生活機能の強化があります。必要な都市機能を役割分担するという集約とネットワークが基本的な考え方なので，二番目の結びつきやネットワークの強化になっています。また，基礎自治体が圏域のマネジメントを行うという特徴が三番目の観点になっています。 （会長） 私は，マネジメント能力の強化ということが，人的交流を含め面白い取組が出来れば非常に有効だと思います。総務省で定住自立圏構想が出てきているので，定住自立圏という言葉にそれほど拘らなくて実効性のある取組を考えていけば良いと思います。 （委員） １対１の協定ということで，一覧表では星取表になっているので，連携する取組がない町もあるという見方でよろしいですか。 （事務局） 定住自立圏の事業では，お互いにメリットのある事業を協定して取組ということなので，重要なことは，実施に際しては，応分の負担が必要であるということです。今回の協定の段階では実現できない取組もあります。 （会長） 交流・連携の中で，海域との結びつきを深めるなど検討することが懇談会の存在意義であると思う。共生ビジョンに取り入れるものもあるだろうし，その他のものは意見として取りまとめることになる。初回ですので，今から，ご自身の立場も含めて，意見をお願いします。 （委員） この定住自立圏の取組に関しては，中心市街地活性化法に基づく取組がありますが，ハードの施設整備がメインになっていますが，医療，福祉，子育てなどの問題，生活者の視点による取組や縦割りではない，横断的な連携ができればよいと思います。具体的には医療ネットワークを身近な診療所にも広げてほしいと考えています。 (会長) 次の委員お願いします。 (委員) 中心市と周辺町の役割分担によって，お互いが補完できる連携ができると行政コストが下がり，住民サービスの向上につながると理解しています。取組の中では，ファミリーサポートセンター事業が子育て支援の面で大きな成果があると思います。産業振興の面では観光の取組はありますが，一次産品とそれを活用できる企業との連携ができるようにすればよいのではと考えています。 (会長) では，次の委員お願いします。 (委員) ＮＰＯとして活動をしています。高松でいえば，女木島などを自分たち

の未来と見立てて考えることを行っています。札幌やベネチアなど高松をいろいろな都市と比較して考えればよいし，高松で活躍していた川島猛氏，イサムノグチ氏などのエネルギーを持った人を生かすことができるまちづくりをしたい。小豆島の例が移住・交流のモデルになると思います。今後，事例を紹介したいと考えています。
(会長)
　海域は大きな課題だと私も考えています。では次の委員お願いします。
(委員)
　私は交通の不便な地域に住んでいます。高齢社会になって，ますます公共交通が整備されていない地域では，今後，集落として維持することが難しいのではないかという危機感を持ち，１０年間，公共交通を考える活動を続けています。
　この定住自立圏の取組では，島しょ部の救急輸送や海上交通などの取組が必要だと思うし，陸地部分の公共交通ではレンタサイクルが重視されておりますが，他の取組も考えられるのではと思います。
(会長)
　では，次の委員お願いします。
(委員)
　生活機能の強化についての取組が重要になってきますので，今後いろいろ勉強しながら考えていきたいと思います。
(会長)
　次の委員お願いします。
(委員)
　子どもたちが学校を卒業して働けるまちにしてほしいと思いますし，次の世代を担う子どもたちに魅力のある高松になってほしいです。
(会長)
　教育現場での取組など考えることも重要ではないかと思っております。
　次の委員お願いします。
(委員)
　主に福祉と教育の分野で行政でできない部分で活動を行ってきました。定住自立圏の広域連携が機能すれば私の役割も無くなるのではと思っています。今後は福祉と医療との連携などが重要になってくるのではと考えています。
(会長)
　では，次の委員お願いします。
(委員)
　取組をみると，医療の分野は多くありますので，今後，協議していきたいと思っています。
(会長)
　次の委員お願いします。
(委員)
　連携する取組については，現況の足りない部分で考えたと思いますが，持論として楽しくなければダメと考えていて，長期的な期間で検討して，瀬戸の美を打ち出すような取組が必要だと思っています。また，生活者自身が実感できるネットワークづくりも重要です。ファミリーサポート事業はコーデネーターの力量が大きく，コーデネーターの育成やセンターの機能を高めることが必要ですし，要望にもなりますが女性リーダーの育成の取組も考えてほしいと思います。
(会長)
　では，次の委員お願いします。

(委員)
　この取組をみると，やはり瀬戸内海を中心に考えていく必要があり，取組に深みがほしいと考えています。海域で離れた地域を考えるに当たっては，情報ネットワークを生活機能，産業とのかかわりをどうするのかということを情報インフラも含めて検討する必要があると思います。
(会長)
　次の委員お願いします。
(委員)
　県内で企業活動が行われた場合，３割は県外へ流出してしまう。これを，どうにかして，県内に引き戻すことが課題だと考えています。定住自立圏の取組も人づくりを第１に考えないと持続可能なものはできないし，圏域マネジメントの強化が大切で，定住自立圏の根本となるものだと思います。
(会長)
　次は副会長，何かありましたらお願いします。
(副会長)
　日本全国では約５２万橋の橋があり，小規模なものは７割程度あり自治体が管理しています。公共投資の減に伴い，身近な例では東かがわ市で橋が倒壊し，生活ができなくなった地域もあるようです。今後，このような事例に対処できるよう，このテーマを研究交流でも扱えるように取組を強化していただきたい。また，瀬戸内の文化を掘り起こして地域特有の高品質なものづくりも重要になってくると考えています。
(会長)
　最後になりましたが，国の考えのコンクリートから人へはよいと思いますがどんな人をつくるのかが重要になります。また，つくることより維持管理，活用を大事にしないとダメだと考えています。
　今後，懇談会として，長期的な取組にもなってきますので，基本的な見方を統一する必要があり，これまでの調査研究を共有し理解しなければならないので，資料を事務局に揃えていただくことを要望しておきます。本日はありがとうございました。